

東京ジャージャー麺

大松 達知

東京ばな奈、東京ひよ子、東京カンパネラ。

東京みやげの売れ筋らしい。お菓子にはおいしさはもろん雰囲気の良い良さが不可欠。だから、東京と味は関係なくとも（あるわけないけど）〈東京〉を付けるのは商売として理にかなっている。異論はない。

過日、〈東京ブラック〉というビールを飲んだ。よなよなエール（というおいしいビール）で有名なヤッホーブルイングのもの。長野県軽井沢町産。東京とは無関係なのに、虚像としての〈東京〉を冠している。うーむ。どういうイメージをつけたかったのか。

そのビールは苦味の際立つオトナ味だった。有象無象が集まるキケンで後ろ暗い土地のイメージなのか。たしかにクリアなラガービールは清廉潔白な感じ。〈東京〉でなく、サッポロとかオリオンに近い。黒ビールといえばロンドン。首都同士の類想から〈東京〉なのかもしれない。缶の片隅に相撲絵調の力士の後ろ姿が描かれているのも謎。それ、

東京じゃなくて江戸でしょ？とも思った。

その後、〈東京ホワイト〉というビールも飲んだ。こちらは Far Yeast Brewing のもの。本社は渋谷。醸造所は山梨県北都留郡。（イースト菌と極東の洒落。念のため。）この会社は「華やかで伝統と最先端が混じり合いながら日々進化してゆく「東京 Tokyo」を表現。」と説明している。

そこまであつげらんかと東京に対する白旗を上げなくても、山梨県に自信を持つてほしいところだが。

池澤夏樹は食べ物に産地名が付き始めたのは、地産地消でなくなつてからだと言っていた。沖縄黒糖、北海道バターとあるのはイメージ向上と同時に品質保証でもある。ブルックリンパーラーや銀座ルノアールが地名と無関係だとみな知っている。地名に対して失礼なほどだ。

では、〈東京ジャージャー麺〉（うちの近所にあります）はどうか。本場のそれに対して遠慮しているようでありながら、独自の味を誇っているようでもある。だまつて〈ジャージャー麺〉と看板を出すのは味気ないし、例えば「コスモス軒」みたいな看板だと何を提供しているのかわからない。絶妙な店名だと思つた。うまかつた。

東京のお菓子をあげて生みたての玉子もらいぬ 恥ずかしくなる
松村由利子『耳ふたひら』

地名の喚起力があり、そんなのははかない幻想でもある。そういえば春から東京を出ていないなあ。